

における青年会の奉讃事業は、

教学部長

 \mathbb{H}

中

海経活動もつとに会員の各寺院 教うまことに尊い事業である。孝一ろに一深い意義が見出されるので「完成を願って止まない」

ある

える最尊の情緒、心情といってよ

をキャッチフレーズに、全国的規。即応の浄行が実現するのである。

また|あなたの愛とまごころと| いのであるから

励として受容するとき、自利々他 挙もエネルギー資源からみの景気 方便とし、托鉢行を上求菩提の発 みのことである。六月のダブル選

の変動も、暗示的な動きである。

無所得の営みが、同時に自己を向

点を注意して邁進したい

とも青年宗侶も諸事業展開

の修行である。利他の方便である

布教伝道は最後まで自己

このように写経行を大衆教化の とは、国内外ともにすでに認知す

八十年代が変動の時代であるこ

旗手となれ。」

私の熱い期待の一言である。 『曹洞宗青年会よ、八十年代の ては宗門の未来は暗い が、そのリーダーは青年会員諸君

を照らすのが布教伝道の大本であ 道である。伝道は伝法である。佛 出版されていた。「一、布教は伝

のない真の救いとなるものを自

であってほしい。いやそうでなく で研究をし実践しなければならぬ ただいている。宗侶か適した方法 もこの六月から自坊に一教えの電 てのみ果し得ることであろう。私一

話」を開設した。幸いに好評をい

んを通して本部まで御提出頂きた ある。各位の御意見等を評議員さ えざる新しい教化策の研究によっ | 委員会を設けて進めて行く所存で

を青年会に期待したい。 それは断

特に水年二祖国師七百回大遠忌

こたろうか 最近は次第に地

らに飛躍を

え、現在ある組織及び活動を尊重 運動である。一、地域の実情をふま 神宗青年会は、青年宗侶の主体的 | 体的な方向性について意見交換を 的な組織化が検討され、青年宗侶 | 年会部門でなされ、推進方向で検 する。一、青年宗侶の連携をはかり が主体的になって運動展開をしよ で中心にした青年教化連合会があ てある。以前は、一種のつどい」 会推進委員会が正式に発足したの 昭和五十年五月六日に曹洞宗青年 と確認されたのである。(昭和) その席上でも、青年会の全国 審議された。その間の経過が、昭 和五十年七月二十八日の総特審青 会常任委員も出席して総特審で具 八月二十三日、われわれ推進委員 したのである。 討することが了解され、更に同年 けと役割が約一年間以上もかけて 曹青の立場、宗門的な立場等か

青の特性を生かし、青年宗侶の道 踏えて進められたのである。 おいたのである。『個人加人』とい 心の発露を喚起することに主眼を うことは それなりの深い意義を 組織の再編成を推進すべく、 に幸ったのであるか、先の総会で

曹洞宗青年会も宗門の与望を担

徳を培うことは、荒み行く人心を に親を敬愛し、祖先を崇拝する美

ある托鉢を通して参加者各自が、

特に若い人々には格好の教材とな

ようという着想と理解できるが、

宗侶の基本的修行で

行は、大遠忌の趣意の普及もさる。音樂を通して大遠忌を後代に伝え

あり得ない。 ますます荒廃が進み

そして宗教界ももとより無縁では

全曹青綱領の制定

模で展開する会員自身による托鉢

カンタータ「具管打坐」

て来たのも青年宗侶の熱情そのも 五年。その間、「個人加人」、「組 果であろうと思う。「個人加人」は

曹青結成大会が開催されて以来、

昭和五十年十一月、十六日、一、規約改正への指針

当初から「個人加入」を主標とし

二祖様の遺訓を体得していくとこ ろう。難事業であろうが首尾よい

、十年代の旗手となれ

全曹青に望む

対社会への運動を推進する。以上 の三項目である。

全曹青が発足して、五年目を迎 | 宗門の 教化推進のため、「教化宗 で宗門内における全曹青の意義づ のかあった。そしてその構想の中 ター構想も漸新で、目を見はるも 団」の大目標をかかげ、教化セン 全曹青会長 委員会開催

えた。当初は、青年会運動推進の

四情報紙発刊に と進んだのである。 昭和五十年十 口結成大会運営方法について検討 て行く方針が採択されたのである。

随

所

作

主立所

皆真

らも検討され、その結果、地方曹一通全面ストップ を会員の熱意でもって開催するこ 曹青結成大会。 とができたのである。 折り悪く公労協ストの影響で交 その悪情況の中

を強力に推進したい。

『事業計画案の検討 (一曹洞宗青年会会則試案の検討 | 討議事項 六日第一回曹洞宗青年会設立 青年会発起人総会開催

その後五年を経て全曹青か今日 得るべきものかあったと確信して はあったか、その内容は評価され | 認事項として、全曹青の活動方針 | 的に各地区の大会も順調に開催さ 青年会は宗門体制内に完全に てしまうことは、問題であり、 全曹背設立以来、遅々としてで一のであったろう。先の総会での確一職拡大」へと進めて来たが、全国

昭和五十年十月二日、曹洞宗 | 員加入制度の確立、□綱領制定 藤

> 中四国 近 北 畿 陸

桑原大宗(新潟 松岡秀雄(山口) 村瀬信行(滋賀) 釜田隆文 (三重) **峯岸秀哉**(群馬) 華原正憲

井川悦道(東京

本路線を各位の総意を集めて考え 約改正を行い、今後の全曹青の基 非制定へと進めたいと同意を得た 更に会歌、バッチの制定も前向き に取り組むことも検討されて、是 前流諸方針をふまえ 全曹青規

王一 | 山崎恵明 (埼玉二) 峯岸 藤実英(神奈川一)鈴木永城(埼 清水明俊 (愛媛) (評議員) 《関東》青木哲夫(東京)安 川敬学(鳥取)堅田英伸(島根) 九州

本年度の理事 評議員決まる

次の諸兄が理事、評議員に選任されました。 五十五年度全国曹洞宗青年会総会において

部康善(茨城)松本力也(千葉) 秀哉 (群馬) 木村誠治 (栃木) 岡 四)

賢孝(愛知一)彦坂昌美(愛知一) 形一)未 阜)釜田隆文 (三重) 俊定(京都)伊串善道(大阪)河 杉浦紹雄(愛知三)不破孝道(岐 裕道(山形三)戸部英三(秋田) 〈東海〉桜井孝順(静岡三)丹羽 苫米地俊乗(青森)葦原正憲(山 《近畿》村瀬信行 (滋賀) 大谷

惇

(北海道二) 田光洋一長野一蟹江祖真一愛知 **〈尼僧団〉**井川悦道 (東京) 梅

村松雄(奈良)渡辺義弘(兵庫一

「順不同、敬称略

浩章 (広島) 松岡秀雄 (山口) 宮

《中四国》柴口成浩 (岡山) 岡本

〈九州〉未 定「福岡」未 定 下さるようお願い致します。 正範(宮城)高屋行継(岩手) 出の上、本部事務局までご連絡 〈北海道〉 木 〈東北〉大谷真龍(福島)清水 なお未決定の地区は早急に選 未 定 (北海道 一未 定 定(山形二)斉藤 定一北海道

雄司(新潟三)工藤淳法(新潟 潟一 矢辺俊一 (新潟二) 田中 田快正(長野二)桑原大宗(新 宮崎) 未 定 (鹿児島)

(佐賀)下川忠厚(熊本)未 定(大分)村田和元(長崎)未 定 《北陸》水野孝道(長野一)根 し増益して、書ねく自他を利す

中正にして偏らざる道に誘引する 力にまつところ、頗る大なるもの 復興途上にある我国では、青年の の御命に生きる道である。」と織さ の慈恩に報ゆるの行持であり、佛 がある。然るに、これを指導して へき内容のものであろう。 当時の宗門の姿勢として評価す

れが信仰精神に生きているか否か については 現在も普遍であろう 課題であらねばならぬ。」右の内容 禅、この四つの願いを生かす! ことが、青年への布教伝道の中心 |とは、一利他||持戒||開法四学 こある。 教化者として求められる こで、青年宗侶として深く反省 一法の利行である。そして廣大

念こそが、「仏祖への報恩行 が「求められる教化者像」である 地方寺院にあって不退転の道

三、授戒会修行の方簿

であろう。来年二月か三月頃の子 取り入れて、授戒会に真剣に取り ものの発揮される場合が、授戒会 宗門における「授戒会」は、私ど る青年授戒会修行の件であるが 全曹青か昨年当初より計画し

的に推進するためには、規約改正 行できるようにマニアル作成を試 |合せて行う『授戒会』である 討や、蓬定作りにも意を注ぎた かこれが地方の寺院で定期的に修 認識をしたい。当初は、資材の検 命脈でもあることを青年示僧は再 この大教化事業は、宗門教化の

内容の指導書が宗門では検討され 布教伝導の心得という格談高い 青年僧侶が中心になって出来得る 人衆教化」の課題に取り組む所有 て それらを今一度再検討をし られた戒会が立派に残っているの 現在までの宗門には先賢の行

大切にし、道心を喚起するところ あくまで一人の青年宗侶の意志を からの出発であったことと深く注 あることを充分反省したい

可欠である。私はこの重大な任務 | 制定は大なる意義があろう。具体 は、機敏に反応する教化活動が不一大へと移行する中で、『綱領』の 混迷が深まるであろう人心の救済 規約改正に伴なって、この組織拡 かあかってきたことは 大きな成 本理念を担考する時でもあろう。 青の方向性を見出そうという気運 | 意を集めて、全曹青活動方針の基 | 定ではあるが、禅文化学林の中に 創始の精神を反省し、今後の全曹 と移行するのであるか、各位の総 れ、全曹青の活動も各地で顕著に | と進めていきたい。この中で特に | も宗侶に果せられている総合的な なってきた。この時期に、今一度 【個人加入』から【全員加入』へ が本総会にも上程され議決を経た。 上決議文が選択され、その決議文 この中で、昨年の東北大会の席 | 組みたいと思う。青年宗侶が力を この点を踏まえて、規約改正へ 二、会歌、バッチ等の制定

般的には大山でないと出きない み、現在行われている投戦会は

である。一宗教は、いかなる社会 前身の中に圧退していなければな



組織

い再編成をめざし

北海道

北

〒 10.5 東京都港区之 2-5-2 曹洞宗宗務庁内 編集 見行 曹 河 宗 青 年 会 TEL03-454-5411 形

青年宗侶の自覚を促そう 社会的価値ある活動をしょう 青年宗侶のエネルギーを結集しょう

地域における活動の連携を深めよう 理 *

中央寺住職宮崎変保老師

回峰行は千日間行われる修行で

J法を応用して試みた

-をしめる。クルーブ研修を、K 禅の集いの中でも重要なポイン

記念講演 作曲家遠藤 ◎十月二十七日~二十八日 "六" | 住職後継者の育成]

実氏

般若心経のこころを詠う

第3回東海地方集会 伊勢

してい

かなければなるまい

講師

比叡山居士林、堀沢祖門師

◎九月二十六日~二十七日 取り上げ、放映ののち、制作者、

第3回近畿地方集会 (比叡山)

運営参画について。公募集方法に

主演者による講演が行われた

グルーブ研修のすすめ方を研修し

分科会において、②アフターケア

// pu

"

曹青のあるべき姿

一曹青事務局のあり方

第三分科会 これからの寺院建築

講師

長生庵堀内宗完宗匠

第2回禅文化学林開催

の実際と今後の展望。回在家者の

等氏

"

より充実し

た活

動

^

11

―予算金八八八万円余承認さる

一は、永平寺 祖国師奉讃青年大会の 会則の変更が叫ばれた。特に今年

全国の青年宗侶によびかける機会

とし、本年度のスタートを切った。

曹 昭55年度于算(収入) 昭和55年度 曹洞宗青年会行事予定表 地方集会 (北陸) 3 29日 理事会・評議委員会 اوي 30 H 総会 3 春期中央禅の集い 30日 総合企画委員会 6月11日 **الل** 部門担当委員会 3 理事会 各地方禅の集い推進 7月~ كليق 総合企画委員会 3 部門担当委員会 理事会 9月 200 Н F m to 1, 272, 000 50, 地方集会 京 務 別 介 供 京 務 3 **建食蛋白的** 医食食医食食食食 16日 二祖国師奉讃青年大会 大本山永平寺・福井市 地方集会 (東北) 200 10月13・14日 * 地方集会 地方集会(中四国) كالجاؤ 企画 **算** 本部 **算** 秋期中央禅の集い 3 11月 地方集会 (東海) 地方集会 (関東) 地方集会 (九州) 国際仏教文化交流 中国天童山等拝登 第1班11/9~19 第 2 班11/10~22 総合企画委員会 12月 部門担当委員会 2月 理事会 第3回禅文化学林 3月 地方集会 曹青通信は隔月発刊子定 度の事業経過報告が執行部より報 講師 講師 告された。 る一万灯供養」という法要を 聴覚教材などを有効に使用するか すべて会員中より登用し、禅の集 ◎五月十日~十一日 後の活動の参考にしてみた。 形曹青の協力により実演された ら学び。特に今回は山形県に伝わ すための話し方を、藤倉修一氏か プワークとしてスキンシップを増 を研修した。 る問題を考え、情報の伝達、又視 いを実施する担当者が直面してい 今回の研修会は講師、助言者を 記念講演は、禅の集いにグルー その主なる事業内容を記して今 第2回北海道地方集会(札幌 春期中央禅の集い研修会開催 五十五年度総会において、前年

元NHKアナウンサー藤倉

そった、「大衆教化者像の研究」と

協力 参画協会

教化の接点を求めて」のテーマに

教養セミナーとして「大衆

意義あるグルーブ研修のため 秋期中央禅の集い研修会開催

近に必要とする、テーマについて

今大会の特色は、六つの分科会 「大地に根ぎせ東北は一つ」

◎十一月十三日~十四日

石田尚豊氏 杉山

講師

朗氏

研参し、熱のある分科会を展開-をもうけ、我々青年宗侶が最も身 記念講演 作家 三好京三氏

(KJ法の応用とその効果)

から記念提唱として一光明蔵三味

◎十月十一日~十二日

て厳修され、引続き宮崎炎保老師|等の研修をした

祖国師の子修法要が中央寺におい

えて天台宗の坐禅、写経、食作法

行者と共に一日間体験し、加

第4回東北地方集会

(福島)

◎十一月三日~四日

第2回中四国地方集会

北海道青年会による な日課聖典になる。 況にあった内容を撰べること

水平寺

が綿密に開示された。

修一氏

山形曹青(万灯供養)

う点から「本日ただいま誕生」を

て注目されている KJ法による

問題解決法とし

鄉

分科会 子供達の教育

「過疎地寺院の経営

調

駒大教授桜井秀雄氏

宗門儀礼と民間信仰

生

業報 ラギーグロ

映像文化と大衆教化の問題」と云

組織の拡充と連携 々の推進する事業計画にもとづい 再び組織拡充の提案が出され、各 去る五月三十日の総会において | て、青年宗侶全員が加入するべく、| 大事業をひかえ、この大会を通して



計より決算報告が提出され、監査 れぞれ選出し、五十四年度の事業 と八百八拾万余の予算の議案説明 面に掲載の通り選出されました。 後任の方々の氏名が発表され、 了にともない。 各地区の会員より 報告し、意義なく承認した。 報告を南事務局長、桜井事務局会 続いて昭和五十五年度事業計画 次いで、理事、評議員の任期満 山根宗範君が結果を

会であったと思われます

える時、誠に有意義な講演 りに役立ってゆくものと考

か行われ、審議の結果、別記の通 カジるだけのネズミにはなるなり とのお話し、これは、我々にと 口にしておられたという「仏飯を ても痛烈な一撃であった。 して、講師の母上がいつも 今も耳に残っている言葉 この後、三時から、「禅のつど」 「差別と区別の違い」そ

> 場所、対象、時間等、その状 台紙がそのまま在家用の簡単

> > 生手にするも

悪筆の小生など

合 81

は願ってもない の離せないもの とって箸と同じ 子どもから大人までが容易

開催された 総会終了後、引続き午後一時半よ 始めに、記念講演「仏教と同和間 春期中央禅のつどい研修会が 二十日研修道場に於て

> のテーマで、写経の実習を行った。 いに写経をどうとり入れるか」としこれらのことが、

これは、大遠忌奉讃事業の一つ

時間の都合上、筆ペンを使って

従来の写経とは

員も多数参加して、熱心に お招きして行われた 会場には、宗務庁内の職

経運動と関連するものであるが として曹青が現在推進している写

> 、そのものが初めてという会員も多 の慌しい実習ではあったが、写経 違った特色となっているものです。

く熱心そのものの様子でありまし

と静けさを求め あればなおのこ わるこの世相で 心のゆとり

思われます。 経を望むのも 筆は、寺院に

昭和54年度歲入報告

998,000円 (会費 货 参 加 費 277,000円 (禅の集い) 3 5,991,289円 0Ш 4 5 500,000円 6. 18,150円 (利子) 雑 前 年 度繰越 131.000円

費 724,653円 (諸会議費) 会本 議部 費 1,937,279円 (企画,事務局諸費 3 . 1.561.710円 地方集会,活動費 1.071.159円 (研修会, 委員会費 1,135,479円(曹青通信)

6,430,280円

7,915,439円 昭和54年度蒙出報告

超 施 充 養 費 費 費 費 費 費 合 計 6,430,280円 歳入総額金7,915,439円

議長に宮城曹青の清水正範、副議 | 理解を深めてゆこうと 一姿勢でこの問題にとりく た明日の開かれた宗門つ 熱意か 社会の指導者と ました。我々か青年 耳を傾けていた。我々も て大きく成長させ 驚き、かつ大きなショ 初めて耳にするその実態に 春期中央禅のつどい

積極的に、

を受け

開催 報 告一

研修委員 天 野 宏 雄

めま

考えております 騒々しく そして、

を作りあげてゆかねばならないと 事にも合わせることが出来るもの 禅のつどいはもち論、その他の行 作法の基準となるものをを研究、 寺院での写経会の啓蒙を計ると共 宗門に於ける写経会の差定、 このことを通して、一般 されるものと思われました。 小生も、

のがあります。 い語り聞かせることは出来ないも 感じなければ、あの悲惨さはとう したが、実際に目で確かめ、肌で 間東北勢三名で現地へ行って来ま この、かつてない豊かさと平和

世界は日本の為にのみあるような の中にどっぷりと首までつかり、 考えております。 ぎない進展を計てゆきたいものと

ア活動の現況報告がありましたが 一練習の場とさえ考えております。 やはり、曹青のパワー、エネルギ 出され、募金の状況とボランティ 当然「カンボジア難民」の話題が ーがあってこそ、この運動が継続 このあと、研修とは別ですが、 ります。 | 錯覚さえ起しかねない多くの日本 わるよう、 侶には是非ともボランティアに加 と貧困も体験しない若い世代の宗 えると共に、戦争も知らず、 人に、あの事実をもっともっ お勤めしたいものであ

の集いをより一層充実させ、ゆるり、とするあらゆるものを貧欲に吸り、とれを生かして、禅り、とれる生かして、禅 青の発展も又あり得ないことを考 えられず、禅の集いの衰骸した曹 禅の集いをぬきにした曹青は考 交通・羽田空港より車で25分・地下鉄都営三田線芝公園駅より歩2分

去る五月七日から二週

◎十一月二十二日~二十三日講師 有馬実成師 ◎三月十三日~十五日 (永平寺 みましたが、今後充分検討し実施 以上抜粋して主なる事業を記して 第4回関東地方集会(水戸 「青年宗侶の現代における使命 第8回九州地方集会(佐賀 曹洞宗審事院長鈴木輪堂師 駒大教授奈良康明先生 全曹青常任講師有馬実成師 000000 (詳細は第14号掲載 石附质行師 差引繰越金 金 1,485,159円 東京グランドホテル 〒105 東京都港区芝2丁目5番3号 Tel. 03-454-0311



神前結婚式 仏前結婚式 ました。 案内書急送。



歲出総額金

・ツイン・和室 一万五千円 ・シングル 八千円より お送りします。割引優待券(12月末まで) 宿泊

暑 昭和五十五年盛夏 申中 支配人 し上 お 見 社 斉 げ 舞 員藤 ŧ す。 同彰

力強い公正な企業目標の達成によ いくらあっても展望のない場当り

ってのみ成功を納めることができ 的なものであっては所詮無意味で ないが、社会的使命という点では

ある。むしろ、教義と同じ位専門 その果すべき役割は手段は別とし

実行されてゆくもて同じであると言わざるを得ない。

か社会一般を眼下に見下だし超然 ないのである。宗教界、即ち寺院 超社会出世間とは反社会なのでは

計画、そして力強 的に研究され、

正確を情報分析や綿密な経営計画、ているのかもしれない。しかし、

同している訳ではないが、一般社

はない。寺院社会と一般社会を混 誠に至難の業なのである。

段に集約されるといっても適言で

にこの一寺院運営」の在り方、手

ならは 寺院宗教の成否は 当 しれないか あえて | 寺院宗教

う言葉の使用を許してもらえ

最も重要な要素である。極言かも 社会活動の樹幹を成すものであり

過渡期の寺院運営

青年宗侶の双肩に

はあるにしてもその傾向は最も顕 諸々の使命を果してゆくことは、

者であると言わざるを得ない 寺院運営」は、寺院の宗教活動

事実を真実に理解し、認識してい 会的使命を果す為には、安易な考

し、寺院の有する宗教的使命、社 を堅持しながらである。

既運営については、かなりの関心 る。この激動と混迷の社会の中で てもかなりの知識と情報を有して 世界観に的確な基準を与えるべき さして言う訳ではないが、大乗仏 る寺院は少ない様である。就中寺「え方は、敷も危険というべきであ「報化社会の中で既に、宗教につい」つつ混迷する倫理。価値観、社会、悲劇であろうか。大上段に振りか

いる。宗教の中に自分が求めるべ 使命があるのである。しかし乍ら 教の本義は一般大衆と共に仏陀の

て過渡期に差し掛 ろうとも、組織を有し、維持発展 ばならない。但し、寺院本来の姿 いうことである。即ち寺院は、そ 俗事として嘲笑している中にその らゆる意味におい、対に得られない。如何に宗教であ、寺院はもっと外気を吸収しなけれ、発展向上に大きく関与していると、った。社会現象一つ

一般社会の人々は、発達した情 会と関り合い乍ら社会をリード

の持てる諸機能を発揮し、深く社 低級な俗世間に寄生してしまって

いる寺院の姿は、喜劇であろうか、

作曲家

作詞

家

永平寺二祖国師大遠忌奉讃

奉讃して、来る九月十六日福井市 | 宗務庁にて駒沢大学教授桜井秀雄 | が仮題 「水平寺の四季」につ 国師孤雲懐装禅師七百回大遠忌を | 交響曲の題名が、去る六月二日、 既報の通り、大本山永平寺二祖 | 文化会館において、発表される、 | 先生を囲んで、作曲家黛 - 敏郎氏 駒大教授 もたれた結果

と風景画的にえかくことでな

は藤田さんの方で――大体試案に | という有名な道元禅師のこの歌に、 | 味が無く一つの取掛りということ も現代に生きていて、榊というも いっても淡然とした感心では、意 のについてどういう感心を持って く、当然そこに雲水達の修行があ 春は花 夏ほとときす……

さもあってか、 実行委員の配慮の足りな

寺院社会は、あ い実行がなければ、望む結果は絶 のでなければならない。この点で 社会存在のあらゆるものが、その としていられた時代は既に過ぎ去 》を、ここにもちいた訳けで、ここ 桜井先生 『この道元禅師の歌は

つを低級な 〉 に只管打坐という意味が考えられ | 御協力を得るべく努力してまいり るわけで、父親の内大臣通親公こ 伝承的に、自分の俗系の人達にあ 覚と連帯の深い絆で結ばれ合って 似たものが非常に道元禅師の中に 法華経を詠んだ一つで、この歌に ゆくのだ、という純粋なこの気持 力し合ってゆく中に、お互いが自 しゃにむにくらいつき、完遂に努 たいと思っております。 このいささか背のびした計画に

> 法話・一週間周期。○三一四五四一五四 相談・月曜日〜金曜日(正午から二時)

〇三一四五四一五四

曹洞宗心の電話

求めている。 かなり宗教的につっこんだことを けてすか
道元禅師の詠んた歌は て詠んだときは言葉は同じようで ゆ、あわれはかなき冬の雪かな」 「春は花、夏はうつせみ、秋はつ の方か高倉院昇遐記の中に 描写的であることは相違がない訳 というのがあり、本来の面目とし 万円ほどが本部に寄せられて来て 上げる次第であります。 納金を合わせて、現在金壱百三十 鉢を実施いただき、托鉢浄財、志 | 茨 城 県 正伝寺 羽賀宏元殿 ったえて全国各地の青年会では托一愛 知 県 長坂好人殿 びかけるや直ちに、難民救済をう おります托鉢に関しましては、呼 愛 知 県 押田清道殿 広く御協賛、御協力を御願い申し を好意をもって御理解いただき さらに奉讃事業として展開して

神奈川県 西有寺 横山敏明殿

4

井田恵明殿

宮城県 千田豊穂殿(二回目)

難民救済義援金寄託者芳名録

3

静岡県 第三宗務所 第三同志 埼玉県 桜井 徳殿

茨 城 県 茨城青年会殿

岐阜県 中川徹哉殿 爱 知 県 山田俊幸殿 奈 良 県 奈良青年会殿

青年が先陣を切って活躍しなけ

クテーズム、利己主義は排除しな ることにあるのである。狭少なセ 教え、即ち仏教を実践し、実現す

状況から、自然界を描写したもの 資せられて親き悟を願わす」 る輩、皆甚妙不可思議の仏化に冥 以て、其起す所の風水の利益に預 土地草木牆壁瓦礫皆仏事を作すを 修證義の中に「是時十方法界の 一今一歩というも、七月中には目標 よりの申込みによる配布、又、各 愛 知 県 松秀寺 佐野令彬殿 せますと、二万部に達し、目標に 地の青年会を通じての配布を合わ | 茨 城 県 大雄院殿 (三回目) さらに、写経については、個人 おります。

埼 玉 県 万年寺 中村賢三殿

北海道

孝德寺 仲川正純殿

岐阜県 青年会 中濃支部殿

会殿

神奈川県 佐藤惣一郎殿

広島県 鈴木章純殿

鳥 取 県 西部青年会殿 東 京 都 木戸純子殿 愛 知 県 佐治真雄殿 新 潟 県 鈴木浄雲殿

|会における企業経営、組織経営が、計画も方針も立派にあり、実行し「判断しているのかもしれない。所「である。宗教界自体混迷の極なの」の志気をもって、小異を離れ大同

格は、全く別ものであるかもしれ、間の法であることは首肯できるが、展興隆に一身を献げるべきなので 謂寺院のもつ性格、一般企業の性 である。宗教は超社会、即ち出世 に就き和親協力して寺院社会の発

はあるまいか

合 掌 無 無

の三万部配布、八月末には三万部

日立市精神海宗者育成 六月二十三日現在 一九一件

合計金額金一、二六五、五八九円

確かに寺院はそれなりに目標も いる。むしろ宗教家よりシビアに と全く逆の現象を露呈くているの く為、青年宗侶は、勇猛不惜身命

き、用不用を的確にセレクトして 現在の状勢は、その理想とする処 方を求め、立派な社会を形成しゆ

かない。更により良き寺院の在り この過渡期に本当に寺院運営の在

り方を模索出来るのは青年宗侶し ればならない時代の到来である。

桜井先生と対談 作詞家藤田敏雄氏、事務局関係者 案というものがあるのですが、何しざいます。」 依頼がありましてこれをどのよう 奉讃し記念事業として、交響曲を 黛 氏 「今回、二祖国師大遠忌を 紙面の都合上、各氏の発言要旨も 意見交換と詞・曲のイメージを この席で勉強させていただき、実 ような記念事業に、まちがったこ 分にも我々は門外漢であり、この | 藤田氏 『いままで、水平寺の四季 | るわけですから、又、黛さんも私 が構想中でありまして、現在、試 | て私が作曲をすると云うことでご お願いしました。藤田さんと私共 | を完成していただき、それを受け なテーマで進めて行くか、台本を | お伺いし、さらに想を練って台本 作って下さいと、青年会より、ご と云う題名に決定しました。 とをやっては失礼と思い、今回、一り、一春は花、夏ほととぎす、秋 くるため数時間に渡る話し合いが 左記に記してみました カンタータ『只管打坐』 は月、冬雪さえてすすしかりけり」 ありますので、直接、桜井先生に と云うタイトルは仮りの題名であ 作詞の段階でいろいろ疑問の点が 近いものは出来ているのですが、 もので、私共では到底深く解釈が 一の高い、禅の精神を表現している 水平寺の四季が非常に訳りやすく 出来ません。水平寺の四季と云い

一歌っておりますが、実は大変次限 度は永平寺へ、という気 入れられるであろうこと の音楽として定着し受け 日にか、この曲が永平寺 を喚起させるものとなる 寺を知らぬものには うことを、そしていつの るいたたせ、いまだ永平 元成の晩には必ずや、広 るものには、聞くたび る曲となって、本山を ・皆様方に御満足いただ 自省と道心をふ

を確信しております。 しかし準備の遅れと、

る期間に全力をもって、御理解、一、作曲指揮 黛 敏郎 ることを知って、深く反省し、残 ら十分御理解いただけない面もあ 一部会員諸兄にす 一、作 調 藤田敏雄 曲目交響曲「涅槃

演奏 カンタータ 只管打坐 福井市文化会館

いめりこんで準備を進め いただいております。 大遠忌奉讃記念レコード

カンタータ 管 打 坐 只

佐 野 令 実行委員長

申し上げます

協賛金 金五千円 特別協賛金、金壱万円以上 送りさせていただきます 責任もってレコード

記念冊子に御芳名をかかげ士 十一月初旬、レコード完成と 月初旬レコード完成ととも

れて領収書をお送り致します きますとレコード引換券を推 をそえて本部へお送りいただ にてお送りさせていただきま 上記の申込書切り取り、現金 ともに責任もって送料会員担

外にお勤めし、協賛金の名をも、 もって高祖大師、二祖国師御直前 五千枚の記念レコードとしてまず よろしく御協賛、御協力をお願 に充当致したく思っております この事業の参千万円に及ぶ諸経費 会員諸兄はもとより、広く宗門内 に奉納させていただき、その他を 記念冊子をそえて豪華箱へ、 御予約、御買上げいただき、

我々の折々の気持と態度を越え | しているところです。 ◇交響曲カンタータ「只管打坐」 致しております。 経の実施をお願い申し上げ、目標 写経会の開催、禅のつどいでの写 達成に御加担いただきたいと切望 さらに一層の御協力をいただき、 一、演奏東京交響楽団

サートを同時録音してレコー 一、共 催 大本山永平寺 以上をもって開催する初演っ 音 アオイスタジオ 催 全国曹洞宗青年会 福井市文芸協会 水平寺奉賛会

ぬ我々の永平寺を、大遠忌を機に、

々を拒絶し、又ある時は我々をの

ある時は厳としてきびしく我

音楽という形で、世にうったえ間 永平寺。この畏敬し追慕して止ま めり込ませ、引きずりこんでゆく

つという夢が 今まさに実現せん

発表コンサート、

曲の黛

先生は、

まさに永平寺に 敏郎、作詞の藤田敏雄両 我々のこの夢と期待をうけて、作

一、日 時 九月十六日、午後六

というところまでまいりました。

一、独唱 芦田 伸介

永平寺二祖国師700回大遠忌奉讃記念レコード カンタ ータ『只管打坐』 限定5,000枚

込

申込枚数 枚 金 円 住 所 T 氏 TEL (FI)

経用紙申込書

申込部数 部 申込者(送付先) 住 TEL 寺院名 寺院 (P) 氏 名 ●備考

を助けて「名主見習」も務めたよ

勘定だかい商人、格式ばった

良寬和尚百五十回忌奉讚

主身近に置いて難さなかったと言 **宝幅の信頼の書を、良寛さまは終**

既にあるべきよっを求めてする生

国仙和尚の死の前後数年、良寶

にあふれていたものと考えます。 実践する生活は、安らぎと豊かさ 活ではなく、あるべき姿を素直に

の世界に遊ぶ者のみが楽しめる、 一山かげの岩間をつたふ苔水のか

幕吏に追われて、京の桂川に より動王の志にあつかった父 (良寛和尚百五十回忌奉讃)

りょうかんさま こんにちは!

れて百五十年目を迎えました。 の帰ったのも知らずカクレンボに

に人を見るとカレイになるぞ」と 寮に父を以南 (いなん) 母を秀子 言い、代々名主と神主を職とする 子どもの頃、「そんな上目づかい その四男三女の長男として

()」に学び、当時「北越蕉風(し きをして捜しに来た母親に尋ねる。 まれた激しい修行ぶりをうかがわ まと言えば五合庵という程有名で られ、俳句の指導に忙しかった父 *うふう) 中興の棟梁」とあがめ ん)] と、心ない者に陰口をたたか | 形見と朝夕に、佐渡の鳥べをうち | 者が、 れ故「名主の昼行灯(ひるあんど てれは素直で正直な子でした。 そ 甲斐あって、師の国仙和尚は、寛 |んでおります。| 心不乱の修行の をながめていたことだと、懐かし |折にふれ生まれ故郷の佐渡(相川)||者に 見つるかも」母の形見といえば、 | 亡くなり、後に「たらちねの母が | じ)の住僧で、その務めをおえた せております。この修行中、母が「すが、元来は国上寺(こくじょう ったと、述懐し、脇目もふらず励しいと定めたようです。後世良寛さ 余生を送るために設けられ

a訳もなく、十八歳の頃、尼瀬の | んうん) 誰か見ることを得ん、為 っですが、もともと気の荒い漁師 | 修行のなったことを認める詩をく に附す山形爆藤杖(さんぎょうら たた寛し、騰々任運(とうとうに ださいました。「良や愚の如く道う |政二年 (一七九○) の冬、立派に んとうじょう)、到る処壁間午睡の ず繊りもしない、何の権威もなく 給米が支給される訳もなく、日々 当然のことなから良寛さまにその 唯だ人の施しに依ってする生活は、 さねばなりません。耕やしてもせ をお釈迦さま以来の沙門(食をケ かなり緊張感に満ちていたものと う人) として、托鉢によってすご 扶持)が支給されていたところか た庵で、名前の由来は、その引退 日五合の給米(当時の一人 左記の事業を企画し、それらの顕 | 団の協力に依り、延べ七十名、禅 | 番組を制作CMは前後のみ二十九 を迎え、新潟県曹洞宗青年会では 五十五年は甚だ以って意義深き年 良寛和尚逝いて百五十年、

光照寺に身を寄せるようになった

閑」、良寛よお前は愚か者のよう

|院茶礼、抹茶・煎茶共々、未だ曽|分間通しの画面が県下全域に放映

■五月三十日午後一時 ■五月三十日午前十時

が行われ、献血車、現金が県知事

収益金を新潟県へ寄附、贈呈式

◇交通遺児に愛の手を

講演「仏教と同和問題 存期中央禅の集い開催 昭和五十五年度総会

■六月十六日~十七日

青年大会打合せのため、実行系

員長、事務局員、水平寺拝登

各部門担当者会議

総合企画委員会

講師 西本納寺

同則運動本部至長 清胤 微昭師

に渡された。

のがあった。茶席は三席、県尼僧

BSNTVの協力に依り三十分

しい催してもあり、反響者しい

越後では珍ら

◇ T>番組の制作(新潟県曹洞宗

会 裡

に

終 る

良寛和尚の宗教」

良寬和尚百五十回忌奉讚記念出版

法華転 法華讃

申込先 〒鄉 新潟県北魚沼郡小出町稲荷町 観音素

局

日 於宗務庁

誌

- 八月十一日

良寬和尚自筆法華転揭載 定備三発行 新潟県曹洞宗青年会 Bs

医偏三、五○○ 送料 B5版箱人 和総

こせしないで全てをまかせ切って に実にゆったりとしている、こせ

いるお前を、(高い悟の境涯など)

に行っても昼寝のやすらぎが得ら と詠わせているようです。 急な斜 こきる者として認める、この師の | 孤独なものと思われます、しかし、 れよう。このように悟りの実践が | 面にある五合庵の生活は、それは 黒ぞめの袖」という自責となって 思われます。それは「何ゆえに家 たく程は風がもてくる落葉かな」 に何不自由ない世界を生み出して を出でしと折ふしは、心に恥じよ かえって精神的 僧形に熱い感動の拍手がわきおこ 県下合わせて八十名、大本山総持 ◇ 百五十回忌法要並講演会 禅僧良寛」のテーマで鈴木老師の 略出班、観音経逸経、黒衣木欄の 寺後堂、鈴木鍛心老師をお迎えし、 りました。県知事の祝辞に引続き、 県民会館二千名の参拝者で埋ま 随喜寺院、岡山・群馬・東京 良寛和尚の書のこころと人林にふ れる絶好の機会であり盛況を極め | 徳をしのばせていただき、県下に での初借館、知時日ではあったか つてない茶席の雰囲気を味ってい

恵まれぬ生活か

使い慣れた藤の杖を与える、どこ を認める私は、このコブのついた

講演、宗内より見た良寛和尚の人一有異義であった。 当日病状止むを之ず来池ならなか | 会の今春からの台本打合せ、合宿か 書良寬和尚追慕一脱落」四半切 話が続き参拝者に多大な感銘を与 間像と玉島円通寺時代の修行のお ◇子供まつり 「静かな心」を配布、現在檀信徒の家 | 尚の気持が通じ、百五十回忌を飾 えた。記念品には、不老閣貌下為 った総持寺副貫首老師の色紙一清一続き、まざに、その熱演は会場と一 の集いに駒大児教、鶴見大みつる 出展に依り、画期的な催しになり 未公開作品数点が宗門寺院の協力 体となり、子供に愛された良寛和 け超満員にふくれあがったよい子 地元曹洞宗保育園の協力で幕あ

いつまでも印象強くとどめること た。この子たちか「良寛さま」を るにふさわしい思い出の行事でし 事計画を立案したこと、県下全体

|増員、全体的な盛り上りを図りた の行事を県都のみではなく地方。 |後の課題として、広範な新潟県で 相互の進捗が見られたこと等、 の宗教界に刺激と好影響を与え 進出することとその内容、会員の 組織の拡大・他県との連絡、

えて下さい。又、本部会員台帳の充実を期するため、

ついては昭和五十五年度、会費の納入を同封振替用紙にてご送金子 会員諸兄には日頃全曹青事業推進のため ●会費納入のお願い

一地区単位曹青にて納入していただく場合は納入会員名を書き添 ご協力いただき心強い 正会員 赞助 全国総売元

印度直輸入(線香・白樹・沈香・ボダイ樹の葉) 御題目入・法名入・おみくじ線香・字の出る線香 線香(ローソク)完全燃焼器・安全焼香台・駄線香

曹青通信原稿と切

各大本山御用達 法 衣・装 束 荘厳・神仏具 贈答用記念品



が生れたこと、青年僧侶のエネ

写経実修、全曹吉の写経運動他

研修はいる

東北地区連絡協議会 於宮城県

ルギー結集が如何に大きく働くこ 一本化し統一が図られ和合と団結 全体を振り返り、良寛和尚の遺

人材の登用を図り三年間の行

黛 敏郎氏、作詞家藤田敏雄氏 駒大教授桜井秀雄先生。作曲家

> • 七月十五日 - 八月三十日

近畿地区連絡協議会 於兵庫県

曹洞通信第十六号発刊

(一五, 000部)

名古屋市中区大須三丁目39番33号(大須交叉点東北側) 〈〒460〉 名古屋1110番・東京5741番 名古屋241-0901 (代表)

東海銀行大須支店/第一勧業銀行大須支店/三 三和銀行上前津支店/富士銀行名古屋支店/三

|出雲崎の山本家、屋号を橋屋と | 県育敷市 | の円通寺に赴いたとい | 書き加えて、父母ははらからを偲 | 良寛さまは、宝暦八年(一七五八) | 坊さんとして備中王島(今の岡山 | り、ありし昔のことを思いて」と つき上人と親しまれ、いつ | その寺の現住職破了和尚の晋山結 | う考えて見るとこれは単なる句で | 私が知っている人は一人も居なか | かみやま)の五合庵をしばしの住 |のに、門前の千軒あまりの村に、|おり)に転々と住み、国上山(く と詠み、この寺に来て何年もたつ 門前千家の村、更に一人を知らず てより、幾たひか冬春を終たる、 この師について出家得度、本当の一に一水くきのあとも涙にかすみけ ら招かれた大忍国仙和尚に出合い、一うに見えます。良寛さまはこの書 行事に、指導者として遠く備中か られているのを嘆いている書のよ

良寛さまは後年「円通寺に来り | 偈(げ)共々終生離さなかったと | どうでも良い、まして金や名祭は はなく、朝廷の権威がおさえつけ んでおります。そしてこれも師の一の薪がある、この上述いや悟りは った良寛さまは、あちこちの庵(い やがて行脚の旅をおえ故郷に帰 かも」悟りの世界に遊び、その遊 すら跡かたも見られない。 はあるべき姿を実践している意識 よ任運の境地がみがかれ 袋の中には三升の米、が端に一東 ばす」生涯立身出世に程遠く、 塵、夜雨草庵の裡、双脚等間に伸 はん迷悟の跡、何ぞ知らん名刺の 三升の米、爐辺一束の薪、誰か問 んぴり天地自然にまかせてきた

揚(ゆうよう)迫らぬ日常かうか 千余名集い かれます。そこで死者干数を出す の軽原に移る信に馳するが如し、

|すすめに従い、島崎の木村邸に招 | 各其の身を慎しんで非に効(なら 三条大地震(文政十一年)を聞き | を詠った上で)ふりかえって見れ に別れを告げ、良寛さまは人々の | す……離しんで日す、今より後 一たび首を回らせば、世 ば、世の中はどんどん軽薄になっ うことなかれ」(ひどい地震の情景

して十年程の乙了桝社住

を思う慈しみの心が、全てを人の

いにする風潮が坐視できなかっ

厳しい磐世の詩です。しかし天災

ら不徳のなすところと受け

和尚の海師のもと、千数百人の人 日、かねて旧知の徳聖寺活眼大機

非儀の

てなにか残さむ春は花、山ほとと

形見

ぎす秋はもみぢ葉」とも「うらを

どる心あたたまる出会いでした かがわせています れを受けとめなければいけないと した。それは良寛さまの晩年を彩 真心尼との出会いもこの時期で よく修一是はこれ災難をのかる ものと思われます。それ故友人

の妙法にて候」と書き送り、人の | 平道元禅師を敬い、その勝れた跡 限りない誇りを感じております で覚めた眼をもつ人を得たことに の曹洞宗団の歴史の中に この越後の順士の中に しく糾弾する言葉も残しておりま しかしそれは、釈尊を慕い永

洞 宗 日 中 友

出発日(8日間) 約330,000円

東京着) (大阪発

○詳しくはお問い合せ下さい

間日本交通公社

お申込み・お問い合せは●

(株)全仏トラベルサービス

〒460 名古屋市中区東桜二丁目22番22号 TEL (052) 932-2701 (ft)

天童寺拝登参拝団鸎

昭和55年10月24日~10月31日 旅行費用